

2022 グランドスラム ハンガリー（ブダペスト）



令和4年7月8～10日にハンガリー・ブダペストにおいて柔道グランドスラム・ハンガリー大会が行われた。柔道グランドスラムは、オリンピック、世界選手権、ワールドマスターズに次いで上位に位置付けされる大会であり、成績によって選手個人にポイントが付与される。これらのポイントがオリンピック出場権の獲得に繋がることから、重要な大会として位置付けられている。

自衛隊体育学校柔道班から、濱田尚里1等陸尉と新添左季3等陸尉の2名が出場した。濱田1尉は昨年の東京五輪以来約1年ぶりの国際大会出場で第3位、新添3尉は昨年10月の2021グランドスラム・パリ以来の優勝の成果を取めた。

2022 新添 好発進 世界選手権に向け

大会2日目に女子70kg級に出場した新添3尉は、1回戦・2回戦ともに得意の内股で技有とし順調に勝ち進んだ。準々決勝ではマヤ・ゴシェン選手（イスラエル）を相手に指導を2個取られるも、大外返で相手を倒し抑え込み、袈裟固で一本を取り逆転勝利した。

準決勝は昨年2021世界選手権覇者のバルバラ・マティッチ選手（クロアチア）との対戦となり、今大会一番の山場を迎えた。この試合も先に指導を2個取られるも、試合終了間際に大内返で寝技に持ち込むと、後袈裟固で一本を決め決勝に駒を進めた。迎えた決勝の相手は、ミリアム・プトケライト選手（ドイツ）。試合は、開始から新添3尉のペースで進み、開始33秒で払腰が綺麗に決まりグランドスラム通算3度目の優勝を手にした。試合後、新添3尉は「今回で見つけた課題を世界選手権までに改善して頑張りたい。」と語った。



健闘 濱田 第3位

大会3日目に女子78kg級に出場した濱田1尉は、初戦で元ジュニア世界王者アリーチェ・ベツランディ選手（イタリア）との対戦となった。濱田1尉は得意の寝技になかなか持ち込むことができず苦戦し、開始2分25秒、アリーチェ・ベツランディ選手の太外刈が技有となり優勢負けとなった。その後、敗者復活戦にまわった濱田1尉は、気持ちを切り替え得意の寝技に持ち込みカレン・レオン選手（ベネゼエラ）から横四方固で一本、続く3位決定戦でもエイライマ・シルベストレ選手（ドミニカ共和国）を縦四方固の一本で破り、3位に入賞した。濱田1尉は試合後「敗者復活戦から3位になれた事は良かったです。世界選手権では優勝目指して頑張ります。」と意気込みを語った。

濱田1尉と新添3尉は、令和4年10月6日～13日にウズベキスタン・タシケントで行われる2022年世界柔道選手権大会へ出場を予定している。さらなる世界での活躍を期待したい。

